

IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行っている。

令和6年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し新出土品展「やとみ新発見展」2024」と「春の特別公開2024」を行った。また、秋には「名古屋城三の丸展」と題し、1988年度より長年行ってきた名古屋城三の丸遺跡の調査成果を展示した。

春の埋蔵文化財展

1. 会場: 愛知県埋蔵文化財調査センター

2. 会期: 令和6年3月30日(土)～4月12日(金)

3. 開催要旨

「やとみ新発見展」(しんはっけんでん)2024」と題して昨年度の発掘調査成果を中心に展示し、展示解説を実施した。入館無料。

4. 内容

「やとみ新発見展」2024」

2階収蔵庫Cにて、2023年に本発掘調査Bを実施した19遺跡(中般若北浦遺跡、郷中遺跡、蕎麦田遺跡、青山神明遺跡、一色青海遺跡、船橋宮浦遺跡、廻間遺跡、清洲城下町遺跡、名古屋城三の丸遺跡、寄島遺跡、向田遺跡、亀塚遺跡、中狭間遺跡、万瀬遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、下延坂遺跡、根道外遺跡、花の木北遺跡、野添遺跡)の出土遺物や写真パネル等を展示した。注目すべき遺物は亀塚遺跡出土の赤彩塼である。期間中の入場者数は789名。

「埋文桜ニュース2024」

配布資料として埋文桜ニュースを発行し、遺跡の概要説明と本年度イベント案内および同時開催の愛知県埋蔵文化財調査センター春の特別公開の展示解説を掲載した。期間中の配布部数は142部。

5. 考古学縁日

令和6年3月30日(土)および3月31日(日)に、やとみ桜まつりに合わせて考古学縁日を開催し、やとみ桜まつり会場で射的、埋蔵文化財調査センター1階でつば釣り、火おこし体験(埋蔵文化財調査センター実施)を開催した。さくら祭り会場テントでの参加者数は1,082名で、埋蔵文化財調査センター1階の入場者数は748名であった。参加景品の缶バッジは383点配布した。

(河嶋優輝)

秋の埋蔵文化財展

【展示】収蔵庫C

令和5年度調査地点の武家屋敷跡でみつかった「水琴窟」の構造の説明パネルを設置し、地中に天地逆に据えられていた常滑窯製品の甕と地上部分の水門付近に置かれていた玉石を展示した。

【イベント】11月4日(月)

遺跡から出土遺物がセンター建物に運び込まれてから行われる業務、接合・復元・実測・写真撮影・自然科学分析・保存処理・収納など発掘調査報告書ができるまでの仕事の様子を紹介しつつ、館内をめぐるバックヤードツアーを開催。収蔵庫内に眠る特大の木製品(木樋)も見学。旅のお供は報告書完成をゴールとした「まいぶん双六」。

(武部真木)

あいち朝日遺跡ミュージアム企画展

愛知県県民文化局文化財室の委託事業として、あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2024」を実施した。

本展では、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品を展示した。今回は、高ノ御前遺跡（東海市）、清洲城下町遺跡（清須市）、田光遺跡（名古屋市瑞穂区）、根道外遺跡（設楽町）、亀塚遺跡（安城市）、掛梨遺跡（西尾市）、三ツ山古墳（豊橋市）、岡崎城跡（岡崎市）の8遺跡を紹介した。また、朝日遺跡からは、亀塚遺跡の赤彩塼の展示に関連して、装身具類の優品を展示した。関連講演会では、亀塚遺跡の赤彩塼に関連して文様の読み解きについての講演のほか、遺跡の性格、塼の文化史についての研究発表を行った。印刷物としては、ポスター・チラシ・パンフレットの企画・編集とガイドブックの作成を行った。



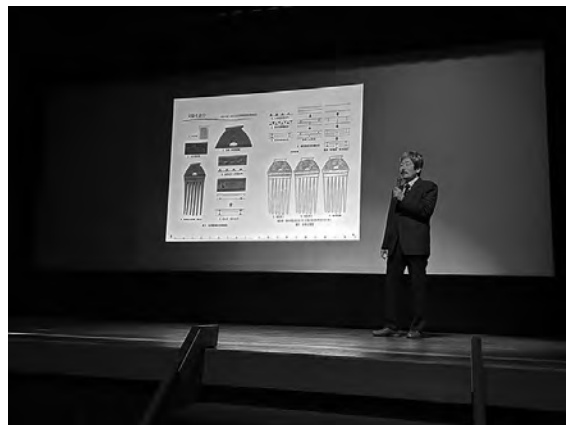
「あいちの発掘調査2024」チラシ



「あいちの発掘調査2024」ガイドブック表紙



企画展示室の展示



関連講演会の開催

1 企画展

(1) 会期 2025年1月18日(土)から3月9日(日)まで

休館日：毎週月曜日(※2月24日(月・振替休日)は開館、翌25日(火)は休館)

(2) 開館時間 9:30～17:00まで

(3) 会場 あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(企画展示室)

2 関連講演会

(1) 関連講演会「デザインの時間軸－安城市亀塚遺跡と赤彩竪櫛」(清須市教育委員会共催事業)

①日時：2025年2月2日(日)13:00～16:30まで

②場所：清洲市民センター1階(ホール)

③講師：深澤芳樹氏(奈良文化財研究所客員研究員)

講演「文様を読む」

河嶋優輝(愛知県埋蔵文化財センター調査研究主事)

研究発表1「亀塚遺跡とその周辺～弥生時代終末期から古墳時代初頭を中心に～」

大熊久貴氏(明治大学文学部助手)

研究発表2「櫛からみる弥生時代の終焉と古墳時代の幕開け」

④参加費：無料

⑤当日参加人数：114名

(2) 発掘調査最新成果報告会Ⅰ「あいちの縄文と弥生」

①日時：2025年1月26日(日)13:00～15:30まで

②場所：あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)

③講師：早川由香里氏(東海市教育委員会)「高ノ御前遺跡」

吉田皓氏(株式会社イビソク)「田光遺跡」

川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター)「根道外遺跡」

④参加費：無料

⑤当日参加人数：52名

(3) 発掘調査最新成果報告会Ⅱ「あいちの古墳と製塩、城館」

①日時：2025年2月9日(日)13:00～16:00まで

②場所：あいち朝日遺跡ミュージアム本館(研修室)

③講師：飯塚寿音氏(豊橋市文化財センター)「三ツ山古墳」

鈴木理絵氏(西尾市教育委員会)「掛梨遺跡」

田中良(愛知県埋蔵文化財センター)「清洲城下町遺跡」

平山優氏(岡崎市教育委員会)「岡崎城跡」

④参加費：無料

⑤当日参加人数：52名

(早野浩二)

あいち朝日遺跡ミュージアム 体験! 弥生ムラへの出展

あいち朝日遺跡ミュージアムでは様々なイベントが開催されている。今年度は令和7年3月1日(土)の午前10時～午後4時30分に開催された『体験! 弥生ムラ』に出展した。

今年度も昨年度と同様、令和2年度に愛知県陶磁美術館で開催した『YAYOI・モダンデザイン』展で制作した弥生王族の衣装を来訪者に着ていただくイベント「弥生王族の衣装を着よう」を実施した。

(樋上 昇)

愛知県生涯学習推進センター協力講座

『令和6年度生涯学習あいち県民講座』の一環として、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座が開催された。今年度は2回でいずれも室内講座と現地学習の組み合わせである。

【1】あいちの遺跡を学ぼう「戦争遺跡から名古屋市中区の戦争を探る」

名古屋市中区周辺に残る戦争の爪痕について、名古屋市見晴台考古資料館学芸員の伊藤厚史さんが講義を実施。現地見学の際に、見学者のサポートのため、埋文センター職員が随同行した。見学コースの解散地点が、発掘調査中の西二葉町遺跡から近い箇所であったため、地元説明会等の案内をした。

①講義

2024年6月8日(土)13:30～15:00

愛知県教育会館 3 階教室

「軍事施設跡と国民の暮らし」

講師：伊藤厚史(名古屋市見晴台考古資料館学芸員)

参加者:15名

②現地学習

2024年6月15日(土)13:30～15:00

愛知・名古屋 戦争に関する資料館(集合)

「町中に残る戦争の爪痕を訪ねる」

講師：伊藤厚史(名古屋市見晴台考古資料館学芸員)

参加者:13名 * 埋文セ職員随行



現地学習(町中に残る戦争の爪痕を訪ねる)

【2】あいちの遺跡を学ぼう『濃尾平野に現われた2つの巨大都市』～発掘調査成果から復元する～

①講義

2024年12月12日(木)13:30～15:15 愛知県教育会館 3 階教室

「濃尾平野に現れた2つの巨大都市 清須」 講師：鈴木正貴 参加者:23名

②現地学習

2024年12月19日(木)13:30～16:00 名鉄新清洲駅(集合)

「清須城と城下町の痕跡を歩いて探そう」 講師：鈴木正貴 参加者:21名

(堀木真美子)

連続歴史講座

1.目的

愛知県内外の考古学に関する成果などを広く一般県民に公開するための歴史講座を開催する。

2.場所

愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室

3.定員

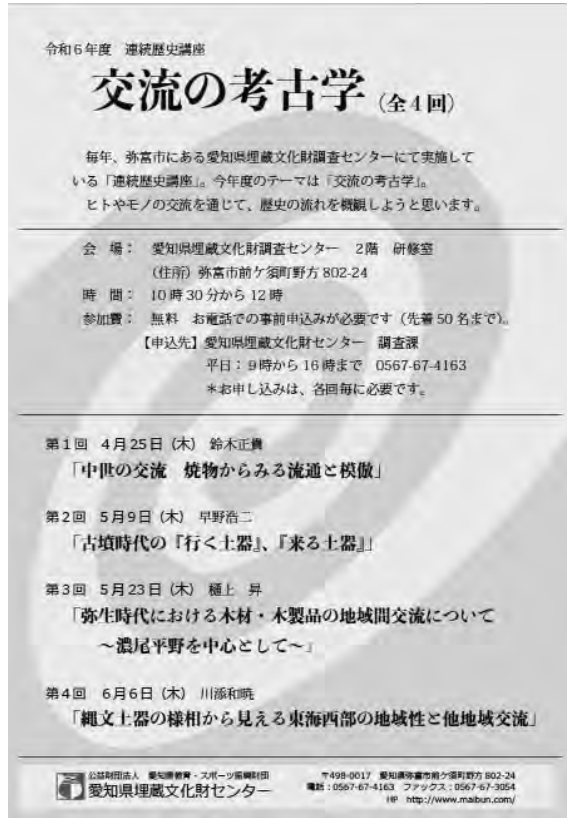
各講座50名

4.内容

今年度の連続歴史講座のテーマは『交流の考古学』とした。ヒトやモノの交流を概観し、それらが各地域にどのような影響を与え、技術や社会が変化したのかを講義形式で解説を行った。いずれの回も午前10:30~12:00に開催し、参加費は無料であった。

日時	タイトル	講師	参加人数
第1回 4月25日(木)	中世の交流 焼物からみる流通と模倣	鈴木正貴	26人
第2回 5月9日(木)	古墳時代の「行く土器」、「来る土器」	早野浩二	31人
第3回 5月23日(木)	弥生時代における木材・木製品の地域間交流について～濃尾平野を中心として～	樋上昇	33人
第4回 6月6日(木)	縄文土器の様相から見える東海西部の地域性と他地域交流	川添和暁	30人

今年度は例年土日開催であったものを平日開催にした結果、前年に比べて参加者の総数が20人ほど増加した。どの回も多くの質問を頂き、アンケートにも多くの回答を得た。(渡邊 峻)



連続歴史講座のパンフレット



講座の様子



遺物見学

栄中日文化センター協力講座

上半期

『「尾張」とやきものづくり ～尾張地域・尾張藩・藩主～』

日程：4月16日・5月21日・6月18日の3回、10:00～11:30

担当：武部真木

内容：「せともの」が陶磁器一般をさす名称となっている愛知県の「瀬戸」。これまでの窯跡の発掘調査や編年研究など精緻な研究成果も豊富で、地域特有の産業の歴史はさまざまな視点から豊かに語られてきている。

講座では、尾張では早くから「産業」としての窯業生産に積極的に関与してきた状況を発掘調査の事例を通して解説した。1回目「戦国時代の山城と窯跡～新しい工房～」では桑下城跡に隣接する桑下東窯跡、2回目「尾張藩がつくる茶陶 ～茶入～」では藩士が茶入生産に関わった瓶子窯跡、3回目「尾張殿様とやきものづくり～御窯屋・御庭焼～」では烏帽子遺跡で検出された窯道具類、すなわち二代藩主の横須賀御殿に存在した可能性のある御庭焼と窯について紹介した。

参加者は1回目11名、2回目12名、3回目7名であった。

(武部真木)

下半期

『発掘担当者が語る東海地域の縄文時代』

日程：10月18日・11月15日・12月20日の3回、15:30～17:00

担当：川添和暁

内容：講座全体の開講趣旨は以下の通りである。

縄文時代というと、三内丸山遺跡や亀ヶ岡遺跡など、東北・北海道をはじめとする東日本の遺跡がよく注目されている。近年の研究では、縄文時代は日本列島の中で地域によって多様な活動が行われたといわれている。この東海地域でも、東日本・西日本の文化的な動向と連動しながら、当地ならではの特色ある文化が営まれていたのである。特に、三河湾沿岸部の貝塚から見つかっている、多数の埋葬人骨や様々な装身具の出土など、その豊富な内容は全国的にも有名である。さらに近年、三河の山間部では縄文時代の遺跡に次々と調査のメスが入り、新しい発見が続々と得られるようになった。縄文時代の集落は、居住の場であり、埋葬の場、さらにはお祭りの場であった。こうした、沿岸部の遺跡と山間部の遺跡を取り上げながら、当地の縄文時代像に迫っていきたい。

1回目「海辺の集落―貝塚を中心に」では、当地に特徴的な貝塚文化を紹介し、当時の海辺の集落の様子を概観した。2回目「山間・丘陵部の集落―設楽ダム関連発掘調査成果から」では、当センターが実施している設楽ダム関連調査の成果をフルに用いて、三河山間部の集落についての最新成果を紹介した。3回目「縄文時代の社会像―地域から見える縄文社会」では、1回目と2回目の内容を踏まえて、東海西部地域の縄文時代社会像について、受講者の皆さまと一緒に考えた。

参加者は1回目20名、2回目25名、3回目26名であった。

(川添和暁)



講座『発掘担当者が語る東海地方の縄文時代』

清須市文化財講座（協力事業）

清須市教育委員会が主催する文化財講座において、1回協力講座を行った。

日時：2024年9月26日（木）10：00～11：30まで

場所：清須市清洲市民センター 302視聴覚室

担当と題目：鈴木正貴「近世地誌・絵図類からみた後期清須城下町」

本講座では、文献や絵図類から清須城下町の様子を考えた。

清須城が廃城になるまでの同時代史料は『駒井日記』文禄3年4月3日条などに限られているので、後期清須城下町の様相を探るために近世から近代に制作された地誌・絵図を検討した。具体的には『春日井郡清須村古城絵図』、『張州府志』「清洲志」、『張州府志』「清洲之図」、『尾張徇行記』第5巻「清須」、『清洲志』巻之一、『清洲志』「清洲壤地図」、『尾張志』「清須の部」、岩瀬文庫所蔵『清洲図』、『清洲村絵図面』、『春日井郡清洲村絵図』、『清須城懷古録』、『清洲町史』を分析した。

『駒井日記』は駒井重勝（豊臣秀次の右筆：中務小輔）の日記で、文禄2年閏9月から文禄4年4月までの17巻があり、その一部が現存する。「文禄3年4月1日条」（1594年5月22日）で豊臣秀吉が駒井重勝に尾張国清須町の町人を帰村させるように命じており、「文禄3年4月3日条」で豊臣秀吉が三位法印常閑と清須町奉行（三輪五右衛門と池田丹後入道と日比野下野守）にその命令を伝え、3名の町奉行の担当別に対象となる町人が書き上げられている。

清須城廃城後は1650年頃の制作と推定される名古屋市蓬左文庫（尾張藩徳川家）所蔵『春日井郡清須村古城絵図』があるが、曲輪などの記述が中心で城下町の記述は極めて少ない。宝暦2（1752）年に完成した『張州府志』「清洲志」と「清洲之図」は尾張藩が最初に編纂した尾張国の地誌では、清須城に関するまとまった記述が初めて記された。坊巷、神祠、寺観、宅趾の項目に分けて記載され、記述の内容は比較的に信憑性が高いと思われる。

『清洲志』は武田載周が文政9（1826）年頃に完成させた清洲に関する私撰地誌で、このうち巻之一是城墟、宅趾、旧号、壤地で構成される。「旧号」には跡地が記載され、その後に清洲から名古屋に移転した寺社や町などが記述されており記述は豊富である。『清洲志』の写本の一つに「清洲壤地図」が付載されているが、白丸を付す注記は、武田載周が清須城時代に関連する事柄と認識したものと推察される。『尾張志』「清須の部」、西尾市岩瀬文庫所蔵『清洲図』、『清洲村絵図面』も記述内容に多少の異同もあるが、19世紀前半に清須城の故地に関するさまざまな情報が集められたと考えられる。ただし、18世紀中頃の『張州府志』以降に追加された情報の信憑性には若干の問題があると思われる。

そこで、『駒井日記』に記載される町名と19世紀前半の西尾市岩瀬文庫所蔵『清洲図』を比較し検討した。この結果、三輪五右衛門が管轄する町は清須城下町の南部、池田丹後入道は清須城下町の北西部、日比野下野守は清須城下町の北東部にそれぞれ集中していることが判明した。したがって、『駒井日記』に記載される町名のうち未だに場所が特定できない町についてもある程度範囲を絞ることが可能であることがわかる。このように、近世に編纂された地誌類も綿密に検証することで城下町復元に役立つといえよう。

（鈴木正貴）

考古学フェア あいちの考古学2024

本事業は、ポスター展示とプレゼンテーションによる調査・研究発表会を主体とし、これに識者による講演会とシンポジウムを加えた考古学的な成果の普及を目的とした「考古学セミナー」と、考古学関連のワークショップやゲームなどによってより考古学や埋蔵文化財を身近にすることを目的とした体験型の普及活動である「考古学フェスタ」で構成されている。

本事業は昨年度より開始され、今年度は2回目となる。「考古学セミナー」と「考古学フェスタ」への出展は、県、財団法人、市町村、大学、NPO法人、民間調査機関、遺跡調査会、研究グループなどから5～7月にエントリーを受付け、内容審査を経て計31件の出展となった。

【主 催】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

【主 管】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

【開催場所】 金山南ビル（名古屋市中区金山1丁目1-1）

【内 容】

1 考古学セミナー（入場料等無料）

① ポスター展示

(1) 開催期日 令和6年11月6日（水）～11月24日（日）※月曜休館

(2) 開館時間 火～金曜日 10:00～18:00 土・日・祝日 10:00～17:00

(3) 会 場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場

(4) 発表者 出展一覧を参照

(5) 入場者数 のべ2,808人

② 調査・研究発表会（発表資料集を無料配付）

(1) 開催日時 令和6年11月9日（土）・10日（日）13:00～16:00

(2) 会 場 名古屋都市センター11階 ホール

(3) 発表者 出展一覧を参照

(4) 参加者数 9日（土）：5つの発表のべ167人、10日（日）：6つの発表のべ209人

③ 講演会・シンポジウム（発表資料集を無料配付）

(1) 開催期日 令和6年11月24日（日）13:00～16:00

(2) 会 場 名古屋都市センター11階 ホール

(3) 参加者数 130人

(4) タイトル 「いにしへの都市『熱田』2500年の歴史を考える」

(5) 講演会 「中近世熱田の都市空間史」講師 山村亜希（京都大学教授）

(6) シンポジウム

関連発表 「熱田神宮の創祀、信仰と伝承伝説」内田雅之（熱田神宮宝物館）

「出土遺物の特性からみた中世都市『熱田』」瀬瀬茂（名古屋市教育委員会）

「断夫山古墳の時代と『熱田』」早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター）

司会 樋上昇（愛知県埋蔵文化財センター）

④ 遺跡講座「なごや空中遺跡散歩—なごやの古代寺院跡—」（発表資料を無料配付）

- (1) 開催期日 令和6年11月22日（金）13:00～14:00
- (2) 会 場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場
- (3) 参加者数 25人
- (4) 講 師 永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）

2 考古学フェスタ（入場料等無料、材料費は別途）

- (1) 開催期日 令和6年11月17日（日）12:00～16:00
- (2) 会 場 名古屋市都市センター11階 ホール、金山南ビル1階 イベントスペース
- (3) 出展者 出展一覧を参照
- (4) 参加者数 5つの出展のべ170人

（永井邦仁）



考古学フェアのチラシ



考古学フェスタのチラシ



ポスター展示会場



講演会・シンポジウム会場

令和6年度考古学フェア出展一覧

No.	タイトル	プレゼン等日程	発表者 (代表者)	機関・団体
ポスター 展示のみ	A01 寺谷 17 号墳出土の巫女形埴輪	-	吉田真由美	鈴鹿市考古博物館
	A02 田楽砦の調査成果	-	池口太智	春日井市教育委員会
	A03 愛知県愛西市水無野遺跡の調査成果	-	佐藤成浩	愛西市教育委員会
	A04 神宮寺跡（犬山市楽田）について	-	兼松泰弘	愛知学院大学
	A05 似て非なる土器—円窓付土器と手焙形土器—	-	安達友隆	南山大学上峯研究室
	A06 「遺跡を歩こうマップ」を使ってみよう！	-	安達友隆	南山大学遺跡を歩こうの会
	A07 木島遺跡 ～豊富な石材と木島式土器～	-	久野隼太郎	南山大学上峯研究室
	A08 小牧市・大山廃寺跡出土瓦の瓦当文様と製作技法	-	永井邦仁	大山廃寺検討会
	A09 大府市 石丸遺跡—第2次発掘調査の成果報告—	-	白樫淳	株式会社アコード・大府市歴史民俗資料館
	A10 猿投窯と湖西窯の燃料材利用について	-	小林克也	株式会社パレオ・ラボ
	A11 見えてきた！大草城址（知多市）の姿！	-	真田泰光	知多市歴史民俗博物館
	A12 考古資料に対する 3D 技術の活用を探る—より正確に、より分かりやすく—	-	大西遼	愛知県陶磁美術館
	A13 あいち朝日遺跡ミュージアム 弥生ムラづくりプロジェクトの紹介 おもてなしムラ人（ボランティア）のご紹介	-	宇井雅俊	あいち朝日遺跡ミュージアム
	A14 岡崎城跡坂谷曲輪の第2次発掘調査成果	-	水野領介	岡崎市教育委員会
	A15 豊川市羽根遺跡から出土した石造物の風化のメカニズム	-	荒木徳人	愛知県埋蔵文化財センター
ポスター 展示＋プレゼン	B01 犬山焼具州赤絵再考—鳥の図柄を中心とした比較研究—	11月9日（土）①	宮川菜々子	犬山焼ミュージアム
	B02 関ヶ原町不破関跡の発掘調査	11月9日（土）②	小出一磨・田中優衣	名古屋大学考古学研究室
	B03 朝日遺跡出土鍬の工学的解析による実用途推定	11月9日（土）③	桃井宏和	元興寺文化財研究所
	B04 吉田城址石垣の年代の再検討	11月9日（土）④	中川永	豊橋市美術博物館
	B05 西尾城大手門跡発掘調査成果	11月9日（土）⑤	浅岡優	西尾市教育委員会
	B06 三河吉田藩主松平忠利墓の発掘調査	11月10日（日）①	神取龍生	幸田町教育委員会
	B07 名古屋城石垣の残石群調査—長久手市猪鼻堰跡残石群—	11月10日（日）②	大村陸・川出康博	名古屋城調査研究センター・元長久手市教育委員会
	B08 熱田 B 遺跡出土木製品の網羅的年輪年代決定がもたらす新たな可能性	11月10日（日）③	中塚武	名古屋大学環境学研究科
	B09 熱田 B 遺跡における建築部材・木製品の用材選択	11月10日（日）④	高橋敦	株式会社古生態研究所
	B10 先史時代人の行動復元 4—川向東貝津遺跡での石器作り—	11月10日（日）⑤	平井義敏	東海石器研究会
	B11 聖武天皇即位 1300 年記念 久留倍官衙遺跡を紹介します	11月10日（日）⑥	大原涼子	四日市市シティプロモーション部文化課
考古学 フェスタ	C01 石を割って、石器を作ろう！	11月17日（日）	平井義敏	東海石割り会
	C02 埴輪の模様を写してカードを作ろう！	11月17日（日）	早田有紗	春日井市教育委員会
	C03 かりうち体験会	11月17日（日）	鈴木恵介	愛知県埋蔵文化財センター
	C04 こども学芸員	11月17日（日）	青木 修	犬山焼ミュージアム
	C05 点灯！名古屋城天守	11月17日（日）	蔭山誠一	愛知県埋蔵文化財センター

サポーターズクラブの活動について

令和5年度から愛知県埋蔵文化財センターの広報普及活動をサポートしていただくための組織「あいち埋文サポーターズクラブ」を開設した。今年度も年会費1,000円を納めていただき、活動内容の充実に努めた。令和6年度は4月から会員の募集を開始し、令和7年1月にて57名の方々に登録をいただいている。

活動内容は、遺跡の現場見学会が8回、ワークショップ「考古学実習」が2回、ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」が2回、イベント「考古学フェスタ」への参加が1回の計13回の例会実施であった。

今年度の初めての試みであるワークショップ「考古学実習」を行った。内容は報告書作成作業について、石器と土器の整理作業の各1回を行い、整理報告作業に伴う遺物の分類、実測、写真撮影などを体験していただくものであった。講師となった職員も含め、参加された会員とアットホームな雰囲気の中、意見交換を多くしながら楽しく実施することができた。

また、クラブの主要な活動の一つである遺跡見学会は、後日実施する地元説明会の事前検討会も兼ねている。この見学会では、現場担当者からの遺跡の解説だけでなく、より具体的な質疑応答が行われ、会員にとっては発掘調査のより深い情報に触れる機会となり、好評を得ている。

(蔭山誠一)

令和6年度サポーターズクラブ例会参加者一覧

日 付	イ ベ ント	参 加 人 数
R6.5.23	考古学実習 石器編	9名
R6.5.30	青山神明遺跡C区見学会	14名
R6.6.6	考古学実習 土器編	9名
R6.9.5	青山神明遺跡A区・B区見学会	13名
R6.9.12	西二葉町遺跡見学会	18名
R6.10.3	青山神明遺跡K区見学会	8名
R6.10.24	一色天神遺跡見学会	9名
R6.10.31	青山神明遺跡M区・青山金剛遺跡見学会	9名
R6.11.27	パレススタイル土器を作ろう 土器製作編	9名
R6.12.5	萱野遺跡見学会	4名
R7.1.16	青山神明遺跡F区見学会	9名
R7.1.27	パレススタイル土器を作ろう 土器焼成編	10名
		のべ121名



考古学実習 土器編



青山神明遺跡見学会



ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」土器製作

